所報 あきた

所報あきた 126号
令和２年５月15日発行
発行所　曹洞宗秋田県宗務所
発行責任者　齋藤昭道
〒010－0812 秋田市泉三嶽根15－18
ＴＥＬ(018)868－6871
ＦＡＸ(018)868－6872
http://soto-akita.com
info@soto-akita.com
題字　能代市倫勝寺　山田晃一
写真　能代市倫勝寺　山田俊哉

○令和２年度秋田県宗務所事業計画

○令和２年度秋田県宗務所歳入歳出予算

○所会議長・所会副議長・禅センター各部長挨拶

令和２年度 通常所会(間隔を広げる等の対応をして開催)

記念の年度を迎えて

秋田県宗務所　所長　齋藤昭道

殆ど雪のない冬を過ごし、輝かしい新年度を迎えようとする時、世界中が未曾有のウイルス感染の真っ只中にいようとは誰が予想したでありましょう。今こそ、人類が一致団結してこの目に見えない敵と戦わなければなりません。

さて、去る三月二十四日宗議、所会議員諸老師のご出席のもと宗務所会が開催され、上程致しました本年度事業計画案、予算案を始めとする案件すべてが、慎重にご審議いただいた上でご承認可決いただきましたことをご報告申し上げます。

特に、昨年度までを期限に各寺院の級階査定が東日本大震災等により数年延び十数年ぶりに見直されました。教区の査定委員をお務めいただいた皆さまはじめ、御寺院様には御協力いただき心より御慰労申し上げます。当宗務所管内の総点数は改定前と比べて約五千点減少となりました。金額にして四十万ほどの不足が予想されます。しかしながら、昨今の情勢を考え、今までの賦課金額一点八十円で今年度は乗りきりたいと考えております。

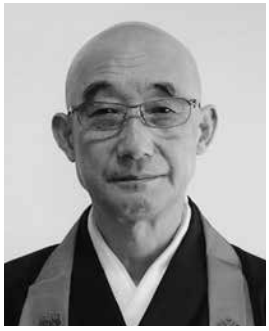
また、行事計画につきましても、所会開催前までは、七月までの事業計画も上程致しましたが、宗務庁からの指示もあり、六月開催予定の特派布教・特派梅花の巡回ともに中止せざるを得なかった事情もございます。そこで、すべての事情を総合的に判断し、お盆前のすべての行事の中止と見直しをしているところであります。

特に本年度は秋田県梅花流六十五周年、秋田県宗務所・禅センター設立三十周年と大きな節目が重なる年となりました。本年度の後期行事は現在の感染症の終息を待って、是が非でも、開催したいと考えております。梅花流全県奉詠大会では、講員の皆さまの息の合った奉詠と笑顔に是非お会いしたいと思っております。

また、十一月九日に宗務所・禅センター設立三十周年にあわせて設立集会を開催し、記念講演として、医学博士養老孟司先生をお迎えする運びとなっております。その後、記念式典を開催し、これまでに御功績のあった方々の顕彰をしたいと計画しております。この度の記念集会は、県内外の来賓をお迎えし、県内宗門関係者のみならず檀信徒の皆様ともどもに祝賀致したいと考えております。何卒御理解と御協力をお願い致します。

また、年明け早々に本庁主催の過疎地域現地懇談会が秋田県宗務所を会場に宗議・各教区長老師の御参集をいただき開催されました。この懇談会では、詳細な資料もいただき改めて秋田管内の現状を客観的にみることが出来たと感じております。過疎対策は、宗門がかかえる様々な課題を内包していると思います。宗門に属する檀信徒がすべからず平等なサービス?を受けられるのが過疎対策の入口でありましょう。

最後になりますが、昨年の天災で亡くなられた方々、そして、この度の感染症で犠牲となり亡くなられた方々のご冥福を祈るとともに、闘病中の方々の一日も早いご回復を願い、結びといたします。



前例のない新年度のスタート

所会議長　藤原徳義

年明け早々、中国で初めて確認された新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、日本でも感染が拡大して緊急事態の様相を呈しております。不要不急の外出自粛が求められ、我々僧侶も葬儀や法事は勿論のこと、現実的に寺院の活動をどうしたらよいか悩みます。

さて、三月二十四日に通常所会が宗務所で開催され、新年度に向けた提出議案の全てが満場一致で承認されました。宗務所長老師の胸中には、所会を中止する事態も予測しての開催召集であったことを思うと、開会の挨拶から安堵の様子を垣間見たような次第です。それ故、新級階に基づいた今年度の歳入予算が、ほぼ前年同様の規模で開催できる事業予算を組むことができ安心致しました。

しかし、今回の感染拡大という深刻な状況下では、計画した事業が滞りなく実施できるのか、その見通しが立ちません。この目に見えない脅威を前に、計画の自粛や中止といった苦渋の決断を、この先に余儀なくされることも予想されます。前例にない、令和二年度のスタートといっても過言ではありません。

そのような不安を抱えながら、「人間であるということは、自分には関係のないと思われるような不幸な出来事に対して責任を感じることだ」と新聞に載った言葉が強く心に残ります。自国の利益のみ顧みて他国を顧みない方法は、自国を完全に守る手段ではなく、世界の国々が支援し合ってこそ共通の利益を守ることができるのです。利他行の大切さを知らされた思いが致しました。私たちの日常生活や経済活動にも混乱が生じ、しばらくはこの状態とうまく付き合うことしかできません。いろいろな社会的、精神的問題も生じてきますが、責任のなすり合いでは解決の糸口を遠いものにしてしまいます。そのときこそ「我々僧侶に何ができるのか」、その真価が問われます。

法句経に「戦場において百万人に勝つとしても、ただひとつの自己に克つ者こそ、実に最上の勝利者である―一〇三―」とあります。戦場で敵に勝つには強力な軍隊と武器をもてばよいのですが、自己に克つとは相手を物理的に倒すのとは次元が全く異なるものです。釈尊は後者、つまり自分のなかの欲望や恐怖に打ち克つ者こそが、最上の勝利者であると教えます。それだけ自らの煩悩に打ち克つことの難しさを説くものと、今改めてその意味を考えさせられる思いが致します。

最後に、新型コロナの感染恐怖が一刻も早く終息することを願い、秋田県宗務所管内の全寺院が英知を発揮して、この難局に立ちすくむことなくご精進されますよう祈念申し上げます。

優しい表現力を

所会副議長　嵯峨義房

境内の紅梅も盛りを過ぎ、桜の開花を喜びながら風に吹き飛ばされた杉の枝葉を掃除するという、毎年の今の時節の到来を嬉しく思いながらも、例年と異なり今年は気持ちが重く感じられます。

今冬の我が地域は降雪も極めて少なく、雪作務も楽をさせてもらったと思いきや、現下の感染症の影響で教区内御寺院の各法要も悉く中止や延期となり、住職就任以来初めての事態に直面し、危機感を共有しながらも些か困惑致しております。県内各御寺院様も同様とは思いますが、入口には消毒液を置けますが位牌堂参拝や年回法要で来山して下さる檀信徒に渡せるマスク等も有るはずもなく、せいぜい会食を中止して持ち帰り用の折り詰めに変更したら如何か、とアドバイスする位しか出来ないのが現状です。

全日仏の「お願い」でも、『葬儀や法要の実施に当たって遺族の意向を尊重するよう配慮しつつ、寺院やその関係者がウイルスの媒介となることのないよう対策を求めている。新型コロナウイルス感染症で亡くなった人の通夜・葬儀・告別式等を営む際は、国の方針を踏まえて医療機関や葬儀場の取り決めに従うよう要請。感染防止のための衛生対策に尽力すること、その上で、できる限り遺族の意向を尊重し、気持ちに寄り添った対応をすることを提案している。』（中外日報より）とある様に、危機管理をしっかりすることが寺院の社会的責任であると訴えております。

既に拙寺では御遠方より御来山の方々の年回法要複数件、納骨供養複数件が無期限で延期になっております。今後の感染の蔓延を防ぐために私共には何ができるのか思慮を重ね、この難局を乗り越えて行ければと思っております。

誠に無力感を覚えますが、こういう時こそ菩提寺としては、心配し困惑している檀家の皆様と共に考え、より良い方策を探り、優しい表現力を思惟してまいりたいと念じております。

東京都では我が宗門の七十代の方丈様が御遷化になられたという報道がございました。諸老師様におかれましては、呉々も御法体安寧でございますように、又各御寺院様、檀信徒の皆様にも御健康に御留意なされますように御祈念申し上げる次第でございます。

令和２年度　曹洞宗秋田県宗務所事業計画

令和２年		事　業	開催場所	備　考
５月	15 日	布教委員会（中止）・布教協議会（中止）	宗務所	中　止
	21 日	婦人会総会（中止）	宗務所	中　止
	26 日～ 28 日	梅花流全国奉詠大会（中止）	札幌市	中　止
		所報第 126 号発行		予算報告　他
６月	８日～ 13 日	梅花特派巡回（中止）	管内 16 教場	中　止
	14 日～ 20 日	特派布教巡回（中止）	管内 18 教場	中　止
	24 日	護持会　総会（中止） 定期集会（延期）	ビューホテル	
	30 日	寺族会総会（中止）	宗務所	中　止
７月	８日	監査会	宗務所	
	16 日	梅花流全県大会（延期）	能代市	文化会館
	29 日	通常所会（決算）	宗務所	
		禅の集い	管内寺院	
８月	11 ～ 18 日	宗務所休務		盆休み
９月	１日	梅花検定会（県北地区）　四級師範・三級詠範・二級教範まで受検可		（中央・県南地区との合同開催を検討中）
	17 日～ 18 日	現職研修会	歓喜寺	
		所報 127 号発行		決算報告　他
10 月	５日～７日	本山研修会	總持寺	
	28 日	梅花検定会（中央・県南地区）　四級師範・三級詠範・二級教範まで受検可		
11 月	９日	禅センター設立集会（永年・寺族表彰式）	キャッスルホテル	講師　養老孟司
	19 日	宗務所寺族集会・研修会	宗務所	
12 月	24 日～１月７日	宗務所休務		
令和３年				
１月	21 日	宗務所梅花講役員会	宗務所	
		所報 128 号発行		
２月	19 日	宗務所梅花講講長会	宗務所	
	25 日	諮問委員会・災害対策委員会	宗務所	
３月	25 日	通常所会（予算）	宗務所	
	31 日	徒弟研修会	宗務所	

曹洞宗秋田県宗務所・禅センター
令和２年度　事業日程表

【禅センター布教部・研修部・梅花部】

No.		月　日	開始時間	担当	事　業　名・備　考
1	２年	4月 3日(金)	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）　中止
2		5月20日(水)	10時30分	梅花部	宗務所講師等研修会　中止
3		5月22日(金)	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）　中止
4		6月 5日(金)	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）　中止
5		7月 2日(木)	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）　中止
6		7月18日(土)	13時00分	布教部	仏教講座① 会場 秋田市文化会館 中止
7		7月21日(火)	13時00分	研修部	研修会①　延期等・検討中
8		9月 3日(木)	9時00分	布教部	仏教講座・野外研修
9		9月 4日(金)	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）
10		9月11日(金)	10時00分		宗務所長杯野球大会
11		10月 2日(金)	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）
12		10月16日(金)	10時30分	布教部	写　経　会　　会場　秋田市文化会館
13			13時00分		仏教講座②
14		11月 9日(月)	13時00分		禅を聞く会（設立集会併催） 禅センター設立集会（式典）
15		11月13日(金)	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）
16		11月25日(水)	10時30分	布教部	写　経　会
17			13時00分		仏教講座③
18		12月 4日(金)	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）
19	３年	2月 5日(金)	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）
20		2月 8日(月)	13時00分	研修部	研修会②
21		3月 5日(金)	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）

令和２年度　曹洞宗秋田県宗務所歳入歳出予算書

（単位：円）

項　　目	前年度予算額	本年度予算額	増　　減
歳　入　合　計	62,195,206	59,500,000	△ 2,695,206
歳　出　合　計	62,195,206	59,500,000	△ 2,695,206
差　引　残　額	0	0	0

歳入の部

項　　目		前年度予算額	本年度予算額	比較増減	説　　明
1.賦　課　金		41,552,560	41,160,480	△ 392,080	
	1.寺格割	1,839,000	1,839,000	0	格　地 10,000 円× 24 ヶ寺 法　地 5,000 円× 317 ヶ寺 准法地 2,000 円× 7 ヶ寺
	2.級階割	35,902,560	35,488,480	△ 414,080	443,606 点× 80 円 前年度 448,782 点 -4,907 点
	3.教師割	3,811,000	3,833,000	22,000	大 教 師 42,000 円× 4 名 権大教師 30,000 円× 68 名 正 教 師 6,000 円× 160 名 一等教師 3,000 円× 127 名 二等教師 2,000 円× 142 名
2.手　数　料		2,000,000	2,000,000	0	
	1.手数料	2,000,000	2,000,000	0	各種申請手数料
3.補　助　金		900,000	900,000	0	
	1.補助金	900,000	900,000	0	本庁より事業補助 教化（各研修会補助等） 梅花・事務・他
4.諸　収　入		2,580,000	3,343,411	763,411	
	1.諸収入	2,580,000	3,343,411	763,411	現職研修会 ○受講料 7,000 円× 180 名 梅花検定会 ○検定料 3,000 円× 70 名 梅花県大会 ○参加料 2,000 円× 500 名 ○雑収入 848,411 円 ○預貯金受取利息など
5.繰　越　金		15,162,646	12,096,109	△ 3,066,537	
	1.繰越金	15,162,646	12,096,109	△ 3,066,537	前年度繰越金
歳　入　合　計		62,195,206	59,500,000	△ 2,695,206	

歳出の部

項目		前年度予算額	本年度予算額	比較増減	説明
1.人件費		18,000,000	18,300,000	300,000	
	1.役職員手当	5,040,000	5,040,000	0	70,000円×６名×12ヶ月
	2.書記手当	1,680,000	1,680,000	0	70,000円×２名×12ヶ月
	3.傭人費	200,000	200,000	0	清掃他
	4.旅費	4,200,000	4,500,000	300,000	本庁及び管区・教化センター 関連会議・事業等参加旅費 （梅花流全国奉詠大会等） 宗務所事業参加旅費 （本山研修会等）
	5.費用弁償	5,760,000	5,760,000	0	所長7,000円 副所長8,000円 教化3,000円 庶務4,000円 梅花6,000円 人権8,000円 書記7,000円（伊藤・我孫子）
	6.期末手当	1,120,000	1,120,000	0	70,000円×２×８名
2.事務費		4,400,000	4,700,000	300,000	
	1.備品費	500,000	500,000	0	書籍代・事務機器更新他
	2.通信費	1,000,000	1,000,000	0	電話料・郵便料・配送料等
	3.印刷費	400,000	400,000	0	封筒・賞状他
	4.消耗品費	500,000	500,000	0	雑貨・事務用品他
	5.リース費	900,000	900,000	0	OA機器・コピー機・電話機・AED・ネットワーク契約・フレッツジャパン月額等
	6.広告費	1,100,000	1,400,000	300,000	宗務所所報 年３回発行・禅センター30周年記念誌
3.管理費		2,650,000	2,700,000	50,000	
	1.維持費	800,000	800,000	0	保険料（地震保険含む） 清掃費（ダスキン月額）浄化槽管理料・警備保障他
	2.地代	250,000	300,000	50,000	借地代（天徳寺様）
	3.営繕費	800,000	800,000	0	修繕費　他
	4.光熱費	800,000	800,000	0	電気・ガス・水道・灯油他
4.会議費		1,500,000	1,300,000	△200,000	
	1.所会	1,300,000	1,100,000	△200,000	通常所会２回・臨時所会１回分削減
	2.委員会	200,000	200,000	0	監査１回・諮問１回・災害対策協議会
5.事業費		9,600,000	9,850,000	250,000	
	1.事業費	2,250,000	2,500,000	250,000	現職研修会 800,000 徒弟研修会 200,000 本山研修会 800,000 所長杯野球大会 150,000 禅センター30周年記念 講演事業等 500,000
	2.布教伝道費	1,000,000	1,000,000	0	特派教場補助２万円×18教場 特派布教師送迎費25万円 宗務所布教師 日当５千円×30 管内教場　　補助５千円×30

項目		前年度予算額	本年度予算額	比較増減	説明
	3. 梅 花 費	5,000,000	5,000,000	0	特派巡回教場補助　２万円×（16 教場+2）・送迎費 25 万円 全県奉詠大会　2,100,000 役員会・講長会　300,000 検定会（2 会場）　800,000 師範・詠範の会　700,000 同一泊研修補助　100,000 指導者養成所　200,000 他
	4. 教 化 費	650,000	650,000	0	布教委員会・協議会 30 万円 各種研修会
	5. 慰 問 費	100,000	100,000	0	住職永年勤続 50･60 年　祝膳料等
	6. 人権擁護推進費	600,000	600,000	0	全国人権主事研修会参加費 書籍・資料等　購入費
6. 禅センター事業費		2,550,000	2,550,000	0	
	1. 会 議 費	200,000	200,000	0	総務部会議費・各委員会
	2. 布教部費	700,000	600,000	△ 100,000	仏教講座・写経会
	3. 研修部費	600,000	600,000	0	各種研修会
	4. 梅花部費	450,000	450,000	0	梅花流講習会
	5. 運 用 費	600,000	700,000	100,000	備品購入・設立記念事業費等 （禅センター 30 周年記念）
7. 補　助　費		7,958,000	8,258,000	300,000	
	1. 事務補助	4,200,000	4,200,000	0	所費 10％各教区へ
	2. 事業補助	348,000	348,000	0	教区主催現職研修会・寺族研修会補助金
	3. 所護持会補助	900,000	700,000	△ 200,000	宗務所護持会へ 管区集会分削減（隔年開催）
	4. 禅の集い	800,000	800,000	0	教区寺院開催補助金
	5. 教化団補助	1,710,000	2,210,000	500,000	寺族会 35 万円・婦人会 40 万円 尼僧団 10 万円・教誨師 6 万円 保護司会 20 万円　布教師の会 10 万円 県曹青会 100 万円（本年：東北大会開催県）
8. 表　彰　費		200,000	200,000	0	
	1. 表 彰 費	200,000	200,000	0	住職勤続・寺族表彰
9. 慶　弔　費		2,400,100	2,400,100	0	
	1. 慶 弔 費	400,000	400,000	0	結制・落慶　本葬　等
	2. 本山慶弔費	100	100	0	両本山慶弔会　等
	3. 弔 慰 金	2,000,000	2,000,000	0	住職・東堂・副住職：10 万円 寺族：5 万円（管内寺院）
10. 負　担　金		539,400	539,400	0	
	1. 全国所長会	156,600	156,600	0	348 ヶ寺× 450 円 （含全国所長会災害援護金 1 ヶ寺 100 円）
	2. 布教助成費	208,800	208,800	0	348 ヶ寺× 600 円
	3. 管 区 費	174,000	174,000	0	348 ヶ寺× 500 円
11. 交　際　費		400,000	400,000	0	
	1. 交 際 費	400,000	400,000	0	住職勤続・寺族表彰
12. 食　糧　費		1,300,000	1,300,000	0	
	1. 所会食糧費	700,000	700,000	0	通常所会 2 回
	2. 委員会食費	50,000	50,000	0	監査会 1 回・諮問委員会 1 回
	3. 所内食糧費	550,000	550,000	0	

項　　目		前年度予算額	本年度予算額	比較増減	説　　明
13. 財政調整費		10,247,406	6,552,200	△ 3,695,206	
	1. 災害見舞金	2,000,000	2,000,000	0	寺院火災見舞金１ヶ寺分
	2. 記念品代	750,000	1,200,000	450,000	教区長退任記念品代 役職員退任記念品代
	3. 財政調整費	5,497,406	2,352,200	△ 3,145,206	設備費・災害対策協議会援護金等
	4. 基本金繰出金	2,000,000	1,000,000	△ 1,000,000	
14. 選　挙　費		300	300	0	
	1. 副 貫 首	100	100	0	
	2. 宗務所長	100	100	0	選挙のない年度の為
	3. 宗会議員	100	100	0	選挙のない年度の為
15. 雑　　費		150,000	150,000	0	
	1. 雑　費	150,000	150,000	0	町内会費・新聞購読料・常備薬　他
16. 予　備　費		300,000	300,000	0	
	1. 予 備 費	300,000	300,000	0	
歳　出　合　計		62,195,206	59,500,000	△ 2,695,206	

令和2年度宗務所基本金積立会計について

(将来の宗務所改築のための積立)

平成31年・令和元年度　基本金積立会計

積立累積金	19,560,074
一般会計繰入金	2,000,000
利　息	1,246
計	21,561,320

○H31.R01年度分は、上記のように積み立てしております。
○H31.R01年度決算所会時にご同意があれば更に積み増しをする場合も御座います。

令和2年度　基本金積立会計案

積立累積金	21,561,320
一般会計繰入金	1,000,000
利　息	2,156
計	22,563,476

○令和２年度の予算案には1,000,000で計上しています。
○令和２年度の歳入歳出決算時の剰余金処分の状況で繰入金を増額する場合も御座います。

令和２年度　東北管区・管区教化センター事業計画

令和２年		事　業　名	講師等の予定
４月	14 日	第 172 回禅を聞く会　中止	
	21 ～ 22 日	教化センター布教師協議会（仙台市）　延期　９月９日	
５月	毎週火曜日	坐禅ナイト　中止	
６月	２～３日	管区宗務所連絡協議会（山形県米沢市　東京第一ホテル）　中止	
	３日	第 173 回禅を聞く会（静岡県成願寺　相原昇明老師　仙台市太白区文化センター）中止	
	30 ～７月１日	管区婦人会研修会（岩手県花巻市　ホテル千秋閣）　中止	
７月	９日	管区教化指導員研修会（仙台市　ホテルモントレ）延期 11 月 19 日	
	10 日	管区人権三者協議会（仙台市）　中止	
８月	26 日	第 174 回禅を聞く会（正法寺専門僧堂堂長　盛田正孝老師　仙台市太白区文化センター）	
９月	初旬	第 53 回教化フォーラム（特派布教師　三部義道老師　仙台市ホテルモントレ）	
	初旬	教化センター布教師教化協議会	
	８～９日	管区寺族会研修会（山形県上山市　古窯）	
	９日	教化センター布教師協議会（仙台市）	
	30 日	教化センター教化活動推進･企画委員会（仙台市）	
10 月	８日	第 175 回禅を聞く会（やなせなな氏　仙台市太白区文化センター）	
	21 ～ 22 日	管区人権啓発研修会（福島県）	
	27 ～ 28 日	管区布教講習会（仙台市　ホテルモントレ）	
11 月	19 日	管区教化指導員研修会（仙台市　ホテルモントレ）	
	毎週火曜日	坐禅ナイト（仙台市 東北福祉大学）	
12 月	１日	第176回禅を聞く会(東北管区教化センター前統監 早坂文明老師 仙台市太白区文化センター)	
	18 ～ 19 日	管区宗議・宗務所連絡協議会	
令和３年			
１月	25 ～ 26 日	管区人権主事連絡協議会	
２月	２日	第 177 回禅を聞く会（愛知専門尼僧堂堂長　青山俊董老師　仙台市太白区文化センター）	
３月	２日	教化活動推進・企画委員会（仙台市）	

禅センターだより

無畏施

布教部長　岩舘裕章

昔は新型コロナと言えば「じゃあ、カローラは？」なんて、今は冗談にも…。

この原稿が載る頃には、コロナ禍は、私たちの生活は、命はどうなっているのでしょうか。そして、他にもまた何か災害が起きているのでしょうか。特にコロナは、世界の歴史に残る災禍となってしまいました。

ご存じの通り、日本では古来、疫病や災害の度に、仏教に救いを求めて来た歴史があります。仏教と災厄は切っても切れないというか、ある意味その為の存在として。寺を建て、大仏を作り、加持祈祷をし…。

では今、私たちはどうあったらいいのか。布教という観点から。

ご祈祷、お経や護符というような形は、もちろん大切です。私たちが認識できるものが全てではないですし、「祈り」信心の力は、不安を取り除き、心の平安を取り戻すためにとても大切なものだからです。ただ、宗門布教的には、多分主流ではないと思います。そして、現代では多くの人が（私たちも）、祈りよりも認識しやすいもの、科学、医学、情報等を頼りにしていることも事実です。

となると、やはり菩薩行。今まで通り、私たちそれぞれが、地元で、被災地で、様々な場所、場面、形で行じてきたことを行持していくということになるのでしょう。義援金や物資、労力であったり、茶話会、傾聴であったり。直接会えないのなら、電話やメールという手だても。できることをできる形で。

そして、そうした財法二施に通底するのが、合わせて三施となる「無畏施」ではないでしょうか。布教試験の必需品『仏教概論』には「無畏施は人々を災厄から救い安らぎを与えることです。すなわち、心の不安を除いてあげることです」とあります。

「行ツテコハガラナクテモイイヒ」（雨ニモマケズ）

畏れ無き状態を施すこと、安心を与えること。ですから「祈り」ももちろん大きな力になるでしょう。状況に応じて、どういう形で施無畏ができるのか参究していけたらと思います。

「施無畏者」は、慈悲のシンボル観世音菩薩の別称。誰一人取り残さないよう三十三もの手だてで対応し、すべての者の心から畏れを取り除き、救いの手を差し伸べる（でも、千手はちょっと頑張りすぎじゃ…）。菩薩は人としての目標。

そうありたい、と口先で言う自分に、ウンザリする時があります。そんな時、最近、心に残った言葉がよぎります。それは、

「きれい事で何が悪い」

令和二年　春

研修部長　高橋一浩

令和二年の冬、当地は降雪・積雪ともに少なく、少し早い春を迎えた。４月下旬、県南は桜花が満開である。木を覆いつくした花々が青空に映える様は心を和やかにしてくれる。

昨年度は第九教区・松庵寺住職・渡辺紫山師を講師に、２回にわたり「詩偈」についての御講義をいただいた。紫山師の本師・昭雄老師編集の「詩偈講座」と師が師匠の遺稿をまとめ作成・発刊された「引導法語作法」を講本とし、初回は詩偈の基本から作成にあたってのきまりと注意点を学び、作品を味わい、更には法語の流れ等をお話しいただいた。

２回目は前もって添削していただいた参加者の七言絶句の講評。紫山師の多岐にわたる口伝の話を交え、

軽妙な語り口と対話形式の進行により、受講者との垣根が低くなり、有意義な研修となった。

師には貴重な時間を割いていただき、深く感謝いたします。

さて、昨年暮れ、中国に端を発し、瞬く間に拡散して、欧米をはじめ全世界に猛威を振るっている新型コロナウイルス。有効な治療法・治療薬もないままに、手探りでの対応を余儀なくされ、感染拡大防止のための措置として、三密（密集・密接・密閉）を避けることの要請がなされ、学校は休校、不要不急の外出は禁止、テレワークの推奨、飲食・娯楽業等の休業と、一口も早いコロナの終息に向けての対応策が呼びかけられています。

我々一人一人が確かな理解と自覚を持ち、範となって自重した慎重な行動をとりたいものである。

ふと手にした永平74世佐藤禅師様の書物に、次の様なお話があった。

「人は忙しい時には仕事に追われ余念がない。暇なときには心が緩む。この時こそ気を引き締めてすべきことを見つけようではないか。一家の中には整理すべきところはいくらでもある。心を動かし、体を動かし、光陰を惜しんで努め励むことは、己の命を尊び、仏の命に生きるゆえんである」

今が「この時」である。

復活する日を待ち望む

梅花部長　浅田髙明

新型コロナウィルス蔓延の影響が、世界中に多大な影響を及ぼしています。秋田県内では罹患者は少ないものの、非常事態宣言発令以来あらゆるところで自粛を余儀なくされています。管内の御寺院様も行事の中止、檀務における様々な制限に苦慮なされていることと存じます。

梅花流では全国奉詠大会が中止になりました。一年以上掛けて準備を進めてきました関係各位、楽しみにしていた全国の講員の皆様はさぞ落胆なされていることでしょう。秋田県宗務所の奉詠大会も七月を予定しておりましたが、現在の所、年度内の開催を目指して延期にするとお伺い致しております。

禅センター梅花部におきましても、秋田県に感染者が出た時点から、ほぼ全ての事業の中止を余儀なくされております。いったん停止してしまった事業が以前通りに再始動出来るかという不安がよぎっております。

宗務所養成所は、今期二年目を迎えております。来年度には新たな所員を募集致しますので、是非ご検討頂きたいと存じます。

壇信徒講習会では、新たな講員さんもちらほらと増えてはおりますが、まだまだ席に余裕がありますので、今後も受講生の増加に努力致します。昨年度から、禅センター布教部の協力を頂き、年に数回、午後の講習前に法話を頂いております。梅花の講師も歌詞解説を通して布教に努めておりますが、ひと味違った布教部の講師による法話は大変好評を頂いております。今年度も継続することに致しております。

又、布教部による仏教講座において、梅花部員により梅花流を紹介する時間を頂いております。新規講員の開拓につながってくれれば有難いと密かに期待を抱いております。

とにもかくにも、新型コロナウィルスが早期に終息し、世の中が平穏になり事業が復活することと、皆様のご健康を祈るばかりでございます。管内の各位におかれましても、くれぐれも御自愛賜りますようお願い申し上げます。

知足集

「知足集」は禅センター研修部が開催した漢詩講座において、参加者が作詩したものを、講師の第九教区松庵寺渡辺紫山老師に添削並びに解説を加えてまとめていただいたものです。
　鑑賞を深めていただくため、漢詩の構造の基本を簡単に記します。

一、平仄（ひょうそく）

漢字を音韻上、四声六種に分類したもの
平声　三十種（上平声十五種　下平声十五種）
これを平字といい○で表す
上声　二十九種
去声　三十種
入声　十七種
　この三種を仄字といい●で表す

二、七言絶句の型

　平起こり式　起句の二字目が平字
（起）○○●●●○◎
（承）●●○○●●◎
（転）●●○○○●●
（結）○○●●●○◎

　仄起こり式　起句の二字目が仄字
（起）●●○○●●◎
（承）○○●●●○◎
（転）○○●●●○●
（結）●●○○●●◎

三、七言絶句の規則

（一）二四不同（にしふどう）
一句の中の二字目と四字目の平仄が正反対になる
（二）二六対（にろくつい）
一句の中の二字目と六字目が同じ平仄になる
（三）押韻（おういん）
起句、承句、結句の七字目に同一の韻を使用する
　このほかに様々な規則があり、それに従って平仄も一部変化します。

一、「令和元旦」

赤石基彦

（上平十灰）

●●○○○●◎
気淑風和元旦梅　気淑く風和ぐ元旦の梅
●○○●●○◎
壺中枝上放香開　壺中の枝上香りを放ちて開く
○○●●○○●
新年佛法無差別　新年の佛法に差別なし
●●●○○○●◎
只管正身端坐来　只管に正身端坐し来たる

（評）
○「気淑く風和らぐ…」令和の出典元の万葉集より。
　この言い方を和臭という。「淑気和風」としたら良い。
○　四句目初学は、二・二・三字を守った法が良い。「端座正身動逸懐」とした。

（添削詩）

●●○○○●◎
淑気和風元旦梅　淑気風に和す元旦の梅
●○○●●○◎
壺中枝上放香開　壺中の枝上香りを放って開く
○○●●○○●
新年佛法無差別　新年の佛法に差別なし
○●●○●●◎
端坐正身動逸懐　端坐正身逸懐（いっかい）を動かす

（淑気和風）梅の甘い香りが風にそよそよと流れてきた
（壺中枝上）早梅の枝をさした壺
（無差別）仏法では、今日は良い日だ悪い日だはない
（動逸懐）あまりの心地よさに、坐してみたものの思わず気ままな思いが出てしまう

二、「年頭偶成」

佐々木耕志

（上平四支）

○○○●●○◎　新春山寺早梅披
●●○○●◎　薄志愚僧独賦詩
●●●○○●●　欲制毒龍禅定遠
○○●●●○◎　鐘声一杵寸心知

（評）

○　新年のお寺での作詞風景を詠んでいる佳句。
○　薄志の愚僧は、あまりにも遜りすぎの感あり、懈怠の衲僧とした。
○　三句目、「禅定遠」を「調御難」とすると龍を制すとの結びつきが良くなる。

（添削詩）

○○○●●○◎　新春山寺早梅披
●●○○●●◎　懈怠衲僧独賦詩
●●●○○●●　欲制毒龍調御難
○○●●●○◎　鐘声一杵寸心知

（懈怠）なまけもの
（衲僧）和尚

（賦詩）詩を作る
（制毒龍）安禅毒龍を制す、心中の煩悩を払う
（調御）思いの通りに操る
（一杵）ひと突き、一声
（寸心）我が心、遜って言う。気がついた。

三、「賀偈」

佐々木耕志

（上平十一真）

●●○○●●◎　淑気巡堂改歳辰
○○●●●○◎　微吟拙偈挙杯頻
●○○●○○●　寺庭無恙慈恩洽
○●○○●●◎　峰澤山頭萬物新

（評）

○　新年の瑞気が四辺に満ちている師寮寺の様子、「巡堂」を「満堂」とした。
○　吟拙偈は、吟一偈の方が自然。
○　杯を挙げるを、杯を重ねるにした。頻りの感じ。

（添削詩）

●●○○●●◎　淑気満堂改歳辰
○○●●●○◎　微吟一偈重杯頻
●○○●○○●　寺庭無恙慈恩洽
○●○○●●◎　峰澤山頭萬物新

（改歳辰）新年、改まった年
（重杯）お屠蘇をいただく
（寺庭無恙）家庭内が平穏なことこそ幸せなこと
（慈恩洽）福城寺方丈さまの家風が伝わってくる
（峰澤山）峰吉川福城寺様の山号

四、「涅槃会」

佐々木耕志

（下平一先）

○●○○●●◎　為自灯明五十年
●○○●●○◎　衆生帰命古今伝
●○●●●○●　世尊入滅有情哭
○●●○○●◎　吾等法孫耕福田

（評）

○　釈尊最後の説法が「自灯明・法灯明」であった。

○　二十九歳で悟りを開かれてより八十歳の入滅まで「唯我独尊」の教えを説き続けられた。

○　「独尊」と使ったので、「世尊入滅」を「雙林示寂」とした。サラの木の間に横たわる様子。

○　遠孫の一人として釈尊の教えを伝えていかねばならない。

○　「吾等」は、「同道」とした。

（添削詩）

○●●○●●◎
親化独尊五十年　独尊を親化して五十年
●○○●●○◎
衆生帰命古今伝　衆生帰命して古今に伝う
○○●●●○●
雙林示寂有情哭　雙林に示寂し有情は哭するも
○●●○○●◎
同道法孫耕福田　同道の法孫福田を耕さん

（独尊）独り尊し、天上天下唯我独尊の教えこそ
釈尊の真骨頂
（帰命）帰依に同じ
（同道）同道の善知識
（福田）種を蒔けば必ず実りがあるように、仏に供養すれば福報を受ける福田を耕そう。

五、「偶成」

袴田俊英

（上平十一真）

○○●●●○◎
深山小寺又逢春　深山の小寺又春に逢う
●●○○○●◎
萬樹開花香雪新　萬樹花開いて香雪新たなり
●●○○○●●
莫嘆依然生計拙　嘆くなかれ依然生計拙なしと
○○●●●○◎
紅塵酌酒足忘貧　紅塵に酒を酌めば貧を忘るるに足る

（評）

○　この詩全体によくまとまった詩。

○　承句「香雪」は「花」の意味にて「開花」と重なり冗字なのでこれを「映日新」とすればすっきりする。

○　転・結の二句、作者の心情を吐露してよい。

（添削詩）

○○●●●○◎
深山小寺又逢春　深山の小寺又春に逢う
●●○○●●◎
萬樹開花映日新　萬樹花開いて日に映えて新たなり
●●○○○●●
莫嘆依然生計拙　嘆くなかれ依然生計拙なしと
○○●●●○◎
紅塵酌酒足忘貧　紅塵に酒を酌めば貧を忘るるに足る

（映日新）日の光に映えて新鮮だ
（依然）相変わらず
（生計拙）なりわいがまずい
（紅塵）日光に照らされて赤く見える土ほこり。転じてにぎやかな町の中

六、「観桜偶成」

渡辺紫山

（上平十一真）

●●○○○●◎
細草青青堂宇隣　細草青青たり堂宇の隣り
○○●●●○◎
桜花爛漫与誰親　桜花爛漫誰とともにか親しまん
○○●●○○●
情多最恨華無語　情多くして最も恨む華に語無きを
○●○○●●◎
微酔方知友有真　微酔して方に知る友に真有るを

（評）

○　起句、桜花の開く要因は東風にある。暖かい東風が吹き、啼く鳥の時節、桜は開花する。

○　承句下三字「与誰親」よりは、桜が咲いているさまを詠じた方がよい。従って「現天真」とした。

○　転句下三字「華無語」は着眼よろし。上四字は「莫愁縦使」と代えた。

○　結句下三字「友有真」は、今一つ「華無語」と連結悪し。「鶯作賓」とすればよい。

（添削詩）

●●○○○●◎　陣陣東風啼鳥頻
○○●●●○◎　桜花爛漫現天真
●○●●○○●　莫愁縦使華無語
○●○○○●◎　微酔方知鶯作賓

（現天真）かざりけがなく思うままにおのれを表現する
（鶯作賓）「華無語」に対する語。花は語らずとも、きれいな声で囀る鶯がお客となって来ているではないか

七、「佛涅槃」

渡辺紫山

（下平一先）

○●●○○●◎　三界導師遷化縁
○○○●○○◎　娑羅花落作哀憐
●○●●●○●　八旬説法没蹤跡
●●○○●●◎　累及児孫教外傳

（評）

○　前三句はこのままでよいが結句が弱いので代えた。

転句「八十年のお釈迦様の説法は、遷化されてあとかたもなくなったようにみえるが、いやそうではない」をうけて添削した。

（添削詩）

○●●○○●◎　三界導師遷化縁　三界の導師化縁を遷し
○○○●●○◎　娑羅花落作哀憐　娑羅花落ちて哀憐を作す
●○●●●○●　八旬説法没蹤跡　八旬の説法蹤跡没し
○●○○●●◎　無礙霊光満大千　無礙の霊光大千に満つ

（三界導師）お釈迦さまのこと
（遷化縁）接化の縁を遷す
（哀憐）あわれみいたむ
（八旬説法）八十年の説法
（没蹤跡）あとかたもなし
（無礙霊光）さえぎるもののないすぐれた本性のかがやき

八、「涅槃会」

佐藤善廣

（下平七陽）

●●○○●●◎　樹下無聲蟾兎光　樹下無声蟾兎の光
○○●●●○◎　金棺既閉幾星霜　金棺既に閉じて幾星霜
○○●●○○●　児孫頂礼涅槃会　児孫頂礼す涅槃の会
●●○○●●◎　往古来今不曽蔵　往古来今曽って蔵さず

（評）

○　静かな涅槃の様子をうまく詠じている。
○　四句目の「往古来今」を「生滅去来」とすれば曽って蔵さぬ真理が見えてくる。

（添削詩）

●●○○●●◎　樹下無聲蟾兎光　樹下無声蟾兎の光
○○●●●○◎　金棺既閉幾星霜　金棺既に閉じて幾星霜
○○●●○○●　児孫頂礼涅槃会　児孫頂礼す涅槃の会
○●●○●●◎　生滅去来不曽蔵　生滅去来曽って蔵さず

（樹下）サラソージュの下に横たわり涅槃に入られた釈尊
（蟾兎）お月様には、ヒキガエルと兎が住むという

（生滅去来）お釈迦様でも亡くなられるという真実
（不曽蔵）真実は、なにもいつも隠れてなんかいない

九、「改歳」

佐藤善廣

（上平十一真）

○○○●●○◎　光陰無間自然親
●●●○●●◎　畢竟不将不迎春
●●○○○●●　松竹常鮮非一色
○○○●●○◎　梅香充満改年晨

（評）

○　改年の晨は、一句目の方が良い。
○　不将不迎の春を迎えた新鮮な決意が好い。
○　松竹梅を読み込んだのは見事、四句目は「非一•色」と対句にして「十•方新」とした。

光陰無間自然に親しし
畢竟不将不迎の春
松竹常に鮮やかにして一色に非ず
梅香充満改年の晨

（添削詩）

○○○●●○◎　光陰無間改年晨　光陰無間改年の晨
●●●○●●◎　畢竟不将不迎春　畢竟不将不迎の春
●●○○○●●　松竹常鮮非一色　松竹常に鮮やかにして一色に非ず
○○○●●○◎　梅香充満十方新　梅香充満して十方新たなり

（光陰無間）時は絶え間なく動いている
（改年晨）新しい年の朝
（不将不迎春）後悔もなく先を悩むことない今日の春
（非一色）よく見るとそれぞれが違う
（梅香充満十方新）甘い梅の香りが境内に満ちて、東西南北天地が新たな心持ちにしてくれる

十、「元旦酌与友」

福本光佑

（上平十灰）

●●○○○●◎　百八鐘声淑気回
○●●○●●◎　令月佳辰花色開
●○●●○○●　三元客到須歓酔
●●●○○●◎　向晩共傾椒酒杯

百八の鐘声淑気回る
令月佳辰花色開き
三元客到れば須く歓酔すべし
晩に向かひて共に傾く椒酒の杯

（添削詩）

●●○○○●◎　百八鐘声淑気回　百八の鐘声淑気回る
●○●●○○◎　夢醒至寺綺窓開　夢醒めて寺に至り綺窓開く
●○●●○○●　三元客到須歓酔　三元客到れば須く歓酔すべし
●●●○○●◎　対爾共傾椒酒杯　対爾して共に傾く椒酒の杯

（百八鐘声）除夜の鐘
（淑気）新春のめでたくなごやかな雰囲気
（綺窓）きれいな窓
（三元）元旦のこと
（対爾）向かい合って
（椒酒）お屠蘇

（評）

○　初めてにしては、良く出来ている。
○　二句目「令月佳辰花色開」は平仄不可なので「夢醒至寺綺窓開」とした。
○　「向晩」は「対爾」にした。

秋田県宗務所ネット法話〈7〉

すべては縁で繋がっている

永泉寺副住職　猪股尚典

今年は記録的な暖冬となりました。雪不足により冬祭りが中止になったり、スキー場が閉鎖したりと、各地で影響がでました。関係者の方が神主さんを呼んで降雪を願う神事がテレビで放映されていましたが、どうやら今年は雪神様は微笑まなかったようです。農家の方は夏の渇水を心配なさっています。山に積もった雪は、夏場の貴重な水源になります。雪解け水が少ないと、海水が川に逆流することが多くなり、塩害が心配されます。また鮎などの川魚の生態にも影響があります。少しの環境変化が、多くの事に様々な形で変化をもたらします。

さて、現在進行形で新型コロナウイルスの影響が多方面に及んでいます。このウイルスが原因で大勢の方が命を落とされ、その数は今も増え続けています。まずは、お亡くなりになられた方のご冥福を祈ります。闘病中の方は一日も早い回復を願います。ご家族の心中を察すると、本当に胸がいたみます。

ウイルスは目に見えませんから、どこに感染の危険があるか皆不安な気持ちで一杯です。誤った情報に流されて買いだめをしたり、海外ではアジア人への偏見差別などもありました。このような危機の時は、人間の根本的煩悩が表に出てきます。仏教ではこれを三毒と申して、貪（むさぼり）瞋（いかり）痴（おろかさ）の三つをとりあげ、戒めるよう説かれます。イタリアミラノの校長先生が生徒達に送った文章が話題となっていますが、過去の教訓から学び、人類の智慧と理性をもって冷静に対処することが大切な時期です。

この新型ウイルスはいったいどこから来たのだろうか、最初の感染者は誰なのか、まるでテレビドラマの犯人捜しのように世界は躍起になっています。将来の為に原因を研究する事は必要でしょうが、結局国同士が責任を押し付けあい、うやむやになって終わる気がします。

お釈迦様がいらっしゃったら、この事態に対してどのようにお話なさるでしょうか。お釈迦様が覚られたこの世の不変の真理「縁起説」で考えてみます。

様々な解釈がありますが一般的に「縁起説」とは、あらゆる物事・存在・結果には因（原因）と縁（条件）があり（因縁生起）、それぞれが関わり合っている（衆縁和合）と説明されます。

人類の命を脅かしているウイルスも、何かしらの因と縁があって生まれた事は真実です。何もない所から命は生まれません。命有るものも無いものも、全ての存在には意味があります。人類からウイルスをみると憎むべき敵ですが、ウイルス自体は悪意をもって生まれたわけではありません。お釈迦様の覚りの世界から見ると、命の存在自体に悪いとか正しいとかの区別はありません。全ては諸行無常であり、空であるがゆえに平等なのです。

私が気がかりなのは縁（条件）です。今年は太陽の活動周期が極小期にあたるそうで、それが様々な事に影響を与えていると説く科学者もいます。それは人類の手におえる所ではありませんが、そうではなく人為的なものによる急激な自然の変化こそ考えるべきです。昨今大変問題になっている地球温暖化は今年の暖冬にも大きな影響を与え、大規模な山火事にも繋がっています。また中国で問題になっているＰＭ2.5に代表される環境問題も然りです。そういった人為的で急激な変化が、ウイルス発生の条件の一つになっていると考える事は自然ではないでしょうか。

世界各国で「持続可能な開発目標（SDGs）」が掲げられております。人類の子孫だけではなく、地球上のあらゆる生命の子孫達にまで思いを巡らす仏様の教えと生き方こそ、今求められているのです。

「一切の生きとし生けるものは幸せであれ」『スッタニパータ』

妄言風発

この紙面は皆様の思惑を掲載するフリーページです

―十六教区の皆さまの声―

唯だ揀択を嫌う？

松雲寺副住職　中村智信

―法事に参列の女性

御焼香の香炉を廻すと、後ろで話し声―

「私クリスチャンだから焼香はできません。」

（ふ～ん、そういうもんか…。）

次の日、納棺に伺ったお宅にて

―ウィリアム（仮名　絶対クリスチャン）

納棺めっちゃ手伝う、鞋の紐を結ぶのに戸惑う、焼香して合掌、しっかり低頭。曰く

「言葉はわからないけど、大切なものは伝わってきたよ。」（通訳奥様）

―お斎の席にて、お酌にきてくれた男性

「こないだ本屋にいったら『とらわれない生き方の指南書』ってのが売ってて笑っちゃったよ。」指南されたらとらわれますよね。

―長女（５歳）

年末、観音堂の大掃除お手伝い。終わって、鈴を鳴らして

「サンタさん来ますように。」

―観世音菩薩即ちサンタ身を現じて～

―再度お斎にて、男性

「世の中のいろんな宗教は他を認めないで争い事ばかり。それに比べて仏教は大らかで良いよね、オレ仏教以外の宗教は絶対認めたくないよ。」大らかに。

キリスト教保育園に通う女の子（４歳）

お勤めおわりのお坊さんをお見送り

「ありがとうマリア様、さようなら！」

さようなら。

非思量（ひしりょう）

重福寺副住職　國安格道

平成元号最後の年　２０１９年、大リーグ、マリナーズのイチローが45歳で現役を引退した。イチロー氏から発せられる言葉は、●自分にとって大切なのは自分●自分自身が何をしたいのかを、忘れてはいけません●大切なのは、自分の持っているものを活かすこと等々。すべてのベクトルは自分にむけられ、只管にヒット一本を重ねていくことに費やされてきた。自分の目の前にある問題と向き合い、点をうち続けた（Connecting the dots 点と点をつなぐ）非凡な人だと思う。そのイチロー氏が、指導者となる資格習得のための研修会を一般の受講者と共に真剣に受講したという。道を究めた人にそんなことがあるのかと驚かされたが、飽くなき探求心の火は、まだ消えていないのだろう。イチロー氏のそんな一筋に生きる歩みには、後悔などあろうはずない！と推察する。

【それは、心を奪うか。
それは、想像を裏切るか。
それは、人生を揺さぶるか。
美しさに、答えはあるか。
何度でも挑み続けろ。
一瞬も　一生も　美しく
資生堂　２０１４年広告コピー】

『寺院消滅』はさせない!!

永蔵寺住職　戸部英二

昭和20年終戦の12月、上野から横手まで20数時間の汽車の旅でたどり着き、生れて初めて屋根まで届く雪にびっくり、それに言葉が通じないので、どこかの国へ来た感じ！『秋田に来れば白いご飯や饅頭も食べられるよ。』と言う事であったが、東

京とそれ程変わらない生活が待っていた。

祖父の弟子の家族や、疎開の親戚で、寺だけでは生活出来なかったので、先住は東京で会社を設立して寺に仕送りを続けていた。本土空襲で学校も、まともに行けず『オール不可』の転校生ではあったが、秋田弁もすぐに慣れ餓鬼大将の本性を現わす。小学高学年・中学の頃は祖父と二人で葬式・法事・寒行……もやり、学校は二の次の時代であった。中学二年の時、部活で武道が許可になり、柔道を始める。高校で二段まで昇段したので駒沢では一年から全日本学生大会に出場す。

今一つの趣味は山野草観察で週末はどこかの山に登っていたので、山岳ガイドが主なアルバイトとなる。

昭和36年無事卒業し、そのまま永平寺に上山するが、先住が昭和30年に境内で保育所を創設し、手が足りないので10月には送安し帰郷、『帰ったら学校か、役所にでも』勤めるつもりでしたが、組寺で小僧役が足りず、10軒程の寺から声がかかり、主軸を寺と保育所にしましたが、半年間の上山生活では、衆寮と浴司の役で終ってしまい、法式や声明も自信が無かったので、青年会（曹青）でもあれば勉強出来たのではないかと思いました。ちょうどその頃全曹青・東北曹青創設の声もあり、昭和51年11月正法寺で東北地区曹青の結成大会があり、秋田県には組織が無かったので私が連絡員として加わり県組織作りの事務局となりました。

いろいろな会がある毎に『県曹青設立』の話を持ち出すもので『この会はそんな話をする会では無い』とか『第3勢力を造るつもりか！』と非難も受けましたが、昭和53年7月25日無事設立出来た事は先進県の応援と同じ志の仲間の応援でした。県曹青結成以来40数年の歴史を刻んで来ましたが、『秋田県人の気性は物事をやり出すと全力投球する県民であるなあ』と、今日までの歴史を振り返ってもすばらしい秋曹青活動に感謝するものであります。

前おきが長くなってしまいましたが、今一番の心配事は『お寺が消える』と言う本やテレビ番組が多くなって来ております。読んでみても、その通りと納得する所が沢山ありますし、世の中の考えもどんどん変化しています。昔は『十年一昔』と言われて来ましたが、近頃は3年先が読めません。私も今年で66期生を迎えた保育所を経営しております。園の経営も寺の経営も同じであると思っております。現在１１０人定員で30名近い職員で頑張っておりますが、少子化時代に入り、どんどん廃園や統合が進んでいる時代ですので、利用者の希望に添う事が大事です。仏教保育はお寺の関係者には得意とする分野です。坐禅指導、花まつり、稚児行列……と独壇場です。又秋田県は移住する人口が増えておりますが、私は『どこに住んでいても永蔵寺の檀家ですよ。』と言って年に2～4回の寺報を全国の檀家さんに発送します。〝墓じまい〟する人もおりませんし離檀者もおりません。その代り、連休には遠方からの葬儀、納骨法事で忙しくなります。

次の問題は絶家が多くなりました。結婚をしない世代が多くなったのが一因ですが、何世代も寺との関係がありますので位牌壇を片づける訳にもいきません。出来る方には永代供養を進めています。

自分の趣味まで紹介しましたが、その事によって仲間が得られ勉強になりますので、声がかかれば何でも受けてしまいました。80才の定年で公職は降りましたが、ボランティアや趣味の会は続けております。人生百年時代と言われる今日、次は何をするかも射程に入れる事は『寺を消さない』一法であると思います。

晨朝覚悟

曹渓寺住職　蛭川学佑

当山におきましては、約十年前の庫裏並びに諸堂工事、先代住職の晋山結制法要に始まり、一昨年の先代住職の三回忌法要、私の晋山結制法要を勤めるまでの間、毎年の様に特別な行事や事業、様々な出来事があった十年間で御座いました。

今思い起こしてみると、自分の事、家族の事、お寺の事、小さな事から大きな事までよくまあこれだけ続い

たものだと我ながら思います。その中には喜びに包まれた出来事もあれば、只々悲しく辛い事（自分の不始末によるものも多々あります）もありましたが、一つだけ間違いなく言える事は、いつの時も今のこの問題が解決すれば明日はきっと良い日になる、きっと楽になれると思いながら過ごして来たという事です。

しかしながら、些末な問題も含め、一つの問題が解決しても不思議と（不思議でも何でもないかもしれませんが）次から次に新たな問題や、やらねばならない事が起きて来ます。さすがに三年前の先代住職一周忌法要の頃には疲れもたまり、うんざりとした先の見えない毎日を過ごしていました。その頃の事です。地域の老人クラブの方々と、私が二十代の頃修行させて頂いた岩手県奥州市の正法寺に参拝し、山主老師の御法話をお聞きする機会が御座いました。

その御法話の中で山主老師曰く「皆様は自分の死の瞬間をどう想像しますか？　私にも現実にはどうか分かりませんが、私は仏教徒であり僧侶でありますので、私が死を迎える時にはお釈迦様と今は亡き師匠が必ずや枕元に私を迎えに来てくれます。そして一言肩を叩いて、良く頑張ったと褒めてくれます。私はかく成るべく固くそう信じて、苦しみながらも毎日精進致しております」と。

まるで私の心を見透かされたかの様な、優しくもある意味厳しい言葉の警策に、私の迷いは涙と変わり、改めて己の弱さに気付かされたのであります。

晨朝覚悟　当願衆生　一切知覚
不捨十方
昏夜寝息　当願衆生　休息諸行
心浄無穢

肝を据えて当山四十一世住職を勤め上げなければならないと、己を叱咤する毎日で御座います。

ナムカラタンノー

西光寺住職　嵯峨宗一

昨年からいろ〳〵な役職も辞し時間的にも比較的余裕が持てるようになった。友達の中には寒村の寺に引き籠り只管打坐の毎日を送っている方もいるし、私も年相応の何かに励んでみるかと考えてみたが立派な事は何も浮かんでこないし又、現実も許してくれない。

今年は春の訪れも早く家内と一緒に世間話をしながら境内の掃除に勤しんでいる。家内は私より上手で進むのが速い。なぜなら右手も左手も利き手で重宝しているようだ。二人でがんばっても雑草は次から次と出没する。それを見ながらふと先達の著した本を思い出した。「人間の煩悩は次から次と出てくるもので煩悩無尽請願断といっても断じきれるものではない。それならば煩悩を身近において共生し一緒に遊べ」と説いていたことを。

沈黙し無心に草を取り除いている時は無我の境地に入り何かしら坐禅に通じるように感じる。しかし陽が傾いてくる頃は今晩も又、家内が心を込めて？燗してくれる一・五合と決めている晩酌がおいしいだろうなどとたわいもない煩悩と一緒に掃除仏法に精進している。

話は変わるが最近県外の友達からよく言われる事がある。それは「ナムカラタンノーまだやっているのか、もうそろ〳〵いいだろう」と。よくみれば皆東堂になった人ばかりだ。住職五十数年勤続しているとその言葉がつくづく身にしみる。私もその仲間に入りたいがなか〳〵思うようにいかない。今後の諸々の事を考えながらナムカラタンノーと今日も又、木魚をたたいているのである。

所報には八年連続で拙い文章を載せていただき感謝しています。もう寄稿することもないだろうとゆっくりしていたらありがたいことに又、又きた。――妄言。猛言。

すばらしい一二六号の発刊となりますことを祈念してやみません。

私事で恐縮ですが今興味のあること

龍泉寺住職　佐々木　誠宗

「心理的応急処置（ＰＦＡ）という支援の仕方があるそうです。早速講習を受けてみようと昨年暮れあた

りからいろいろ調べていたのですが、そもそも講習会自体が頻雑に開催されておらず、開催されたとしても既に定員いっぱいになっております。とはいえ、そのおかげでちょっと一拍おいて取り組めるようになった感じです。

「心理的応急処置」とは『危機的な出来事に見舞われて苦しんでいる人の、心理的回復を支えるための、人道的、支持的、かつ実際の役に立つ様々な支援をまとめたもの』だそうで、その内容は実に多岐にわたります。

その一つが傾聴。苦しみの吐露にたいして基本的なスタンスは傾聴だそうです。が、実際には世の風潮だったり、身近な人の慰めの言葉だったり、全ての人やものがその人の思いを「傾聴だけ」しているのではないというのが現実ではないでしょうか。それが現実だからこそ、逆に言葉を求められるのだと思います。私どもが僧侶だから。素人ではないその道のプロに「そうだね」あるいは「それは違うよ」といってほしい、そういった願いを感じることがあるのです。

『苦しんでいる人の心理的回復』という点でいえば、我々僧侶はそういう方にある意味もっとも近い位置にあります。私どもは医師でもカウンセラーでもなく、だから身体や心の治療はできないのですが、僧侶だから、僧侶としての言葉はもっている。私どもに求められるのは、その僧侶としての本分にしたがっての言葉なのだと、今更ながら認識を強くしているところです。

まだ日は暮れていないので、道が遠いのだけはしっかり見える、ここで駆けようか牛歩で行こうか。とにかく、何を学ぶにしろ「まずはやることをやってから」ということが大切ですね。

火野正平、天使に出会う

永泉寺住職　寿松木（すずき）　宏毅

ＢＳ放送で俳優の火野正平さんが、全国各地を自転車に乗って訪ねる「にっぽん縦断こころ旅」の番組を好きでよく見ている。

ある日、これまでの旅の中で視聴者が「もう一度見たい」という映像が流されていた。

それは北海道旭川市にある射的山という小高い丘に登って、思い出の小学校を見る場面だった。その丘に登るまでの途中、偶然出会った小学校３年生の「はつねちゃん」との出会いが、正平さんにとって、まさに忘れえぬ心の風景になっていくのであった。

はつねちゃんと正平さんは一緒に丘の頂上に登り、ベンチに腰をかけて、見晴らしの良い田園風景と、その奥にある小学校を見下ろしていた。その時、はつねちゃんは遠くを見渡しながら思わぬ言葉を口にした。

「風が吹いているから田んぼがなんか動いている」と。

それに応えて正平さんは言った。

「あれは風の足跡（あしあと）だよ」

「うーん」と考えているはつねちゃん。

「風が足跡をつけて動いているだろ」

はつねちゃんはしばらくしてから「うん」と答えた。映像は田んぼの上を風が吹き渡っていく様子をとらえていた。

正平さんの「風の足跡」とは何とも味わい深い言葉ではないか。そしておたがいの心が共に通い合っていく時間がさらによい。

私はこの場面を見ながら、禅問答に出てくるよき師匠とよき弟子の出会いに似た雰囲気を感じた。問答のなかで大事なことは、弟子がどのような師匠に出会うかである。力量のある良き師にめぐり会えることは、求めたとしても、必ずしもかなうことではない。

そう思うと二人の出会いは、まさしく「一期一会」である。その証拠に収録後、正平さんは「天使に出会った」と回想していた。

※当コーナーの掲載順は原稿到着順です。また、肩書きとご氏名は原稿に準じました。

宗務所だより

過疎対策準備室
秋田県現地視察の報告

令和二年一月十五日、秋田県宗務所・禅センターに於て、宗務庁「過疎地域における宗門寺院の問題に関する対策準備室」（以下、準備室）による意見交換のための懇談会が開催された。準備室からは中村見自室長、衣笠晃暢次長他二名の担当役職員、宗務所からは代理を含む十五名の教区長と所長以下全職員が出席した。

冒頭、中村室長より挨拶と経過説明があり、この懇談会も含めての現地視察は島根県、富山県、北海道に次ぐ4回目となり、人口減少率が全国1位の秋田県の実情を調査する目的であること。宗務庁では過疎対策を本格化するために準備室を「過疎地寺院振興対策室（仮称）」に格上げし、本腰を入れていく予定であること。さらには、この時期にしたのは國安大智宗議より雪の降る時期に実情を見てほしいとの助言があったこと等が陳べられた。

宗務所長の挨拶に続き、衣笠次長より二〇一五年宗勢総合調査を基にした秋田県曹洞宗寺院の調査資料が説明された。要旨は県内仏教系寺院六七九寺院のうち曹洞宗寺院は三四八カ寺。さらにそのうち過疎地寺院は三〇一カ寺で割合は八十七％にのぼること。本務寺院が九割を占め、兼務寺院は令和元年十二月現在二十八カ寺で兼務率は全国平均を下回っていること。一カ寺当たりの檀徒数は約三百戸で全国平均（一四七戸）の約二倍にあたること。住職の高齢化は全国並みであり、若い徒弟が多いことなどであった。

これを受けて教区長十五名より教区の状況や問題になっていることについて報告がなされた。大まかには、以下のとおりである。

1．全県的に人口減少の影響は大きく現われており、ことに秋田市近郊では若者の人口流出が激しい。

2．秋田県では少ないとされる兼務寺院も教区によってばらつきがみられ、後継者の決まっていない寺院も多い。

3．葬儀の規模が小さくなり用僧などの檀務が減少、ひいては寺院収入の減少が起きている。

4．逆に過疎は進んでいるが死亡者の増加（多死社会）により葬儀数が増加している地域もある。

休憩をはさんで意見交換・質疑応答が行われた。

教区長報告の中で話題にのぼった秋田市が設置した「合葬墓」については、秋田市以外の市町村でも設置を計画していることや、各寺院にも「合葬墓」あるいは「永代供養」に関する要望や問い合わせが多くなっていることなど、多くの意見が出された。準備室からは北海道の例などを挙げて今後も広まっていくだろうという見解とともに、後継のない檀家の墓についての対応策を問われ、宗務庁としては「墓地、埋葬等に関する法律（墓埋法）」に反する指導はできない旨の答えであった。

また、昨年度行われた級階査定について、地域間の経済的格差が指摘され、寺院収入あるいは申告する個人所得を査定に反映できないかとの質問には、実際には難しいとの答えがあった。

兼務住職の義財について五年毎に収めることになっているのは実情に合わないのではないかとの質問には、早く後継を決めることを促すための仕組みになっており検討課題であるとの答えであった。

後継の問題では、他にも障害を持った徒弟の僧堂安居や、首座が不足して建法幢が難しくなっている実情が訴えられた。首座に関しては岡山・洞松寺等の外国籍僧侶や尼僧様にまだ首座をつとめていない方が多くおられるとのことであるが、これも検討課題との認識が示された。

翌十六日は藤里町月宗寺に移動し現地聞き取り調査が行われた。準備室４名に所長、庶務主事、人権主事が同行し、月宗寺からは住職と檀家総代の２名が出席。過疎地の人口減少の状況と、檀家減少の実態について聞き取りが行われた。檀家減少は、現時点に於て顕著ではないが、次の代には継承者のいない家が多く、近い将来には二十五％減少が確実となっている。さらには、寺院維持が精いっぱいで改修も小規模な補修しかできない現状が報告された。

２日間を通して、宗務庁及び準備室が把握している５年前の宗勢総合調査による秋田県の寺院の状況はすでに変化が見られ、急速な檀信徒の減少により今後はさらに激変していくことが訴えられた。この度の視察が今後の曹洞宗の過疎対策に生かされることを期待する。

謹んで弔意を表します

僧侶

教区	寺番	寺院名	区分	御芳名	年月日	享年	教師資格
5	137	清涼寺	東堂	高橋　大侃	平成31年4月11日	90	権大
12	64	陽田寺	東堂	飯塚　孝慈	平成31年4月24日	94	正
15	168	東光寺	東堂	田口　恭雄	令和1年5月18日	92	正
6	194	龍昌院	副住	小田嶋巖雄	令和1年7月16日	55	1等
14	132	龍泉寺	住職	加藤　雄悦	令和1年8月13日	92	2等
13	33	龍門寺	住職	杉山　宗和	令和1年9月20日	64	2等
16	186	永泉寺	東堂	寿松木光雄	令和1年12月20日	86	権大
1	2	陽澤院	東堂	浅山明彦	令和1年12月29日	65	正
12	69	潜龍寺	住職	伊藤　静純	令和2年2月23日	90	正
5	136	長谷寺	住職	中川　秀悦	令和2年3月13日	76	正
9	277	長徳寺	住職	佐々木雄彦	令和2年3月15日	73	1等

謹んで弔意を表します

教区	寺番	寺院名	区分	御芳名	年月日	享年
15	172	常福寺	寺族	吉成トモ子	平成31年4月4日	82
7	251	満勝寺	寺族	佐々木麗子	平成31年4月19日	95
1	7	満福寺	寺族	小野　伸	令和1年6月6日	85
1	19	闡信寺	寺族	明石　信子	令和1年8月24日	83
4	99	恵林寺	寺族	本間　綾	令和1年10月27日	93
9	278	清徳寺	寺族	鈴木　稔	令和1年12月21日	79
18	300	永安寺	寺族	藤原　テル	令和1年12月28日	102
17	212	霊仙寺	寺族	中村　れい	令和2年1月12日	98
18	302	天昌寺	寺族	本間　典子	令和2年3月14日	88

トピックス

去る2月26日、4教区龍門寺浅田高明老師の梅花流1級師範補任祝賀会が、秋田キャッスルホテルに於て盛大に開催されました。県内各地より梅花流師範・詠範多数出席され、梅花の名にふさわしく華やかな祝賀会となりました。この度の浅田老師の補任は、秋田県梅花流にとって、平成29年の東泉寺柴田弘一老師正伝師範補任に続く朗報です。

全国青少年教化協議会主催の第44回正力松太郎賞選考会において、13教区雲昌寺副住・古仲宗雲師が奨励賞に選ばれました。地道な植栽を続け自坊を「あじさい寺」として有名な県内有数の観光地にし、地域おこしの拠点として活動を続けている功績によるものです。新型コロナの影響で5月に予定されていた授賞式は秋に延期となりました。日時は未定です。

表紙の言葉

かけがえのない
いつもどおり
アルストロメリア

新型コロナウイルス感染症に対する寺院対応について

葬儀、法事、坐禅会など、宗門寺院の布教教化に不可欠な法要については、以下の点に留意の上、開催されますようお願い申し上げます。

1. 風邪のような諸症状（発熱、咳、倦怠感、気管支障害等）のある方の法要参加を自粛していただくこと。
2. 参加者にマスクの着用をお願いすること。
3. 会場入口にアルコールや次亜塩素酸水の消毒液を用意し、手指の消毒をお願いすること。
4. 座席の間隔を1メートル以上あけること。
5. 30分に一回程度、会場内の換気をおこなうこと。
6. 寺院内のお斎等の食事提供は、可能な限り取りやめること。やむを得ずおこなう場合は、30分以内にとどめるか、頻繁に部屋の換気をおこなうこと。
7. 食器、食材の取扱いには細心の注意を払うこと。
8. 手洗いを励行すること。
9. 関係機関からの中止要請があった場合には、その指示にしたがうこと。

また、大般若会、三仏忌、開山忌等の恒例行事を申止または延期する場合には、檀信徒にじゅうぶんなご説明をお願いいたします。

管内寺院には、くれぐれも慎重なご対応をお願い申し上げます。

※他の仏教関係機関の新型感染症についての対応は曹洞宗公式ＨＰ「曹洞禅ネット」に掲載されていますので、参考にしてください。一部は秋田県宗務所のＨＰでもご覧になれます。

（曹洞宗秋田県宗務所　所長　齋藤　昭道）

第52回檀信徒本山研修会

１．期日　令和２年10月５日(月) ～ 10月７日(水)【２泊３日】
２．会場　大本山總持寺

《大本山總持寺本山研修と東京・福島》

日程表

月日	行　　程	宿　泊　地	食事
10／5(月)	5:00 ～ 6:30　　12:30 頃 各地＝秋田・山形自動車道・東北自動車道＝村田 JCT ＝安達太良 SA ＝ 16:30 頃 ＝蓮田 SA ＝汐入 IC ＝大本山総持寺【第 52 回檀信徒本山研修会】	大本山總持寺 宿坊予定	×弁夕
10／6(火)	9:00 頃 總持寺【本山研修閉講式】＝首都高＝国立競技場（車窓）＝豊川稲荷東京別院＝ 17:30 頃 牛久大仏＝常磐道＝母畑温泉泊	母畑温泉 宿泊予定	朝昼夕
10／7(水)	8:00　　12:20 頃 母畑＝アクアマリン福島＝二本松菊人形（予定）＝二本松 IC ＝村田 JCT ＝ (10/1 ～ 11/23)　　18:00 ～ 21:00 頃 山形・秋田自動車道＝各地	おつかれさま でした。	朝昼×

＊記入例／バス＝＝＝　徒歩……

編集後記

新型コロナ禍は猖獗を極め、宗務所・禅センターの事業も軒並み中止・延期となり、所報も記事の不足が否めない状況となりました。ただ、事業に追われる日常が変わったことで、これまでの研修を振り返る時間ができたのは幸いでした。秋田県宗務所は禅センターと合わせると事業数が多く、詳細をお伝え出来なかったものが多数あります。その中から、今号では昨年度研修部が開催した「詩偈講座」の成果をご紹介しました。

講師の渡辺紫山老師が講義のために編した「知足集」を掲載しましたが、これは松庵寺先住、故渡辺昭雄師が第九教区法友会の漢詩勉強会のために作られたテキストと同名です。紫山老師の師匠様への思慕と尊敬の情が伝わってきました。漢詩をパソコンで打ち込むだけでも相当の手間を要しますが、添削・解説そして編集までも担っていただいた紫山老師には感謝の言葉が見つかりません。

引導法語の基礎となる七言絶句の作法（さくほう）を学ぶことは、かつて初学の僧の必須であったと聞きます。今後も何らかの形で漢詩の研修を続けてまいりますので、多くの皆様のご参加をお奨めいたします。

しばらく外出規制が続きそうです。あれこれと動き回っていた日常を省みると、時間がないと口にしながら、動き回ること自体が目的になり時間を浪費していたかのよう。本来、仏道に入るということは、世間の些事から出離することだったはずです。たっぷりとできた時間を奇貨として、漢詩に親しむというのは如何でしょうか。

（袴田俊英記）

仏教講座

第1回
10月16日（金）
時間／10時半～ ……写　経
13時～ ……講　座
会場／秋田市文化会館
受講料…無料

第2回
11月25日（水）
時間／10時半～ ……写　経
13時～ ……講　座
会場／曹洞宗秋田県宗務所・禅センター
申込み／随時　受講料…500円

禅を聞く会

～曹洞宗秋田県宗務所・禅センター設立30周年記念講演～

11月9日（月）
時間／開演13時30分
会場／キャッスルホテル
講師／養老 孟司 氏
入場無料

養老 孟司（ようろうたけし）
1937年生まれ、東京大学医学部卒業
解剖学を専攻し、医学博士号取得
文化や伝統、社会制度など、人の営みは脳の構造に対応しているという「唯脳論」を提唱
『バカの壁』『身体の文学史』
『手入れという思想』『遺言。』
『半分生きて、半分死んでいる』
など著書多数

梅花流講習

9月4日（金）、10月2日（金）、11月13日（金）、
12月4日（金）、 2月5日（金）、 3月 5日（金）

時間／10時半～15時
申込み／随時
会場／曹洞宗秋田県宗務所・禅センター　受講料…無料

◇問い合わせ
曹洞宗秋田県宗務所・禅センター
秋田市泉三嶽根15-18 TEL（018）868-6871
ホームページ　http://soto-akita.com
E-mail　info@soto-akita.com

年間行事予定

令和２年度(2020)

月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
4	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
APR			梅花講習会（中止）							寺族会監査	曹青総会（中止）			婦人会役員会													婦人会新旧役員会		昭和の日	
月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
5	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
MAY			憲法記念日	みどりの日	こどもの日	振替休日									布教協議会（中止）					梅花講師等研修会（見送り）	婦人会総会（中止）	梅花講習会（中止）					全国梅花大会（中止）				
月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
6	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
JUN		管区宗連（中止）			梅花講習会（中止）						梅花特派（中止）						特派布教（中止）							護持会総会（中止）						寺族会総会（中止）	管区婦人会（中止）
月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
7	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
JUL	管区婦人会（中止）	梅花講習会（中止）				寺族会旅行（中止）		監査会	管区教化指導員研修（延期）							梅花県大会（見送り）		仏教講座①（中止）			研修会①（中止）		海の日	スポーツの日					決算所会		
月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
8	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
AUG										山の日				休務																	
月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
9	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
SEP	梅花検定（県北・検討中）		野外研修	梅花講習会				管区寺族会			所長杯						現職研修会				敬老の日	秋分の日							教化センター	

友引　管区　宗務所　宗務庁　県内寺院